

5 環境整備

1) キャンパス・ポリシー（コンセプト）

①美浜キャンパス

「ふくし」を開発・創造するキャンパスとして、社会的課題の解決に向け、「ふくし」を実践していく。その中で、スポーツ・文化振興の拠点、教育（幼児教育、学校教育）の拠点として、地域計画との連動、付属高校との接続性の強化を図る。また、法人・大学本部があり、最も多くの学生が学び居住し、沿岸部にも近いことから、大規模災害への対応について、自治体（美浜町、南知多町、武豊町）等とも連携した対応策の早期の整備を図る。

②半田キャンパス

社会・地域と連携した実験的な取組を行うキャンパスとして、福祉工学科が地域で行う取組や、健康科学研究所、福祉テクノロジーセンターの企業等との連携など、所在する学部・学科の特色を活かした取組を進め、ブランド向上につなげる。その際、株式会社エヌ・エフ・ユーとの連携による事業化の推進など、本法人の強みを活かした取組にする。

また、知多半島総合研究所が有する研究資源をもとに、知多半島の歴史・民俗、観光などに関する研究拠点として、積極的な展開を図る。

③東海キャンパス

先進的な取組を行うキャンパスとして、産学連携、自治体（東海市、知多市、大府市）との連携を推進していく。特に、産学連携、グローバル化に関する拠点として位置づけ、社会的課題に対する取組を進める。キャンパスの拡張計画に関わり、必要となる機能・施設等の検討を行い、自治体、企業と連携した機関・施設等の設置を図る。

④名古屋キャンパス（専門学校を含む）

大学院教育をはじめとするリカレント教育事業の展開による学びの連続性を提供するキャンパスとして、循環型の学びのしくみを構築するとともに、養成された人材の活用のしくみにも取り組む。また、付属クリニック事業を含む、新たな事業開発・展開を図り、本法人における事業（付随事業、収益事業）の拠点として、また、全国的な事業展開を図る際の拠点として、取組を推進する。

2) キャンパス周辺地区整備

各キャンパスの周辺地区整備に関しては、国、愛知県等の重要政策となる「リニア中央新幹線の開業（令和 9（2027）年想定）」、「西知多道路全線開通（令和 9（2027）年目標）」、「中部国際空港第 2 滑走路供用開始（令和 9（2027）年目標）」などに留意し、本中期計画を進める。その上で、「ふくしの総合大学」の発展に向けた領域の拡大、行政・企業との連携を含めた必要となる機関・施設等の設置を図る。

①美浜キャンパス

「第 5 次美浜町総合計画後期計画」（令和 2（2020）～令和 7（2025）年度）、「美浜町スポーツ推進計画」（令和 2（2020）～令和 11（2029）年度）、次期の「第 6 次美浜町総合計画」（令和 8（2026）～令和 17（2035）年度想定）に留意した上で、特に運動公園事業、小中一貫校の開設等のスポーツ、教育に関連する諸計画への連動を図る。また、名鉄知多奥田駅周辺地区の開発・整備について、自治体、関連機関・団体等との連携を図る。さらに、大規模災害に備えるべく、自治体等との協議・調整を行い、本法人の BCP の遂行を含め、地域との連携を図る。

②半田キャンパス

次期の「第 7 次半田市総合計画」（令和 3（2021）～令和 12（2030）年度）、「半田市公共施設等総合管理計画」（平成 29（2017）～令和 42（2060）年度）をはじめとする地域計画に留意する。

③東海キャンパス

「第6次東海市総合計画」（平成26（2014）～令和5（2023）年度）、次期の「第7次東海市総合計画」（令和6（2024）～令和15（2033）年度想定）に留意する。その上で、東海キャンパスの拡張について、太田川駅西土地地区画整理事業の進捗に十分留意し、関係機関、自治体との調整を図る。特に、行政・企業との連携を含めた機関・施設等の設置を検討・計画する。

④名古屋キャンパス（専門学校を含む）

名古屋キャンパスのコンセプトを明確にする中で、本計画の前半期中に南館の活用方法を含めた利用計画の見直しを図る。あわせて、中央福祉専門学校の周辺地区の開発にも留意し、附属クリニックさくらの将来計画との整合性を図る。